

海外安全対策情報（2018年7月～12月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）全般

ボゴタ市，メデジン市，カリ市等の都市部を含め，窃盗・強盗の被害が昼夜を問わず多発している。

比較的治安が良い地域でも，飲食店内の置き引き，バイク利用強盗，夜間の路上強盗，警察官を偽装して金をだまし取る等，様々な手口の犯罪が見られる。

被害に遭わないためには，身の回りの物から目を離さない，怪しい人物に狙われていないか注意する等，常に警戒を怠らない心構えが必要である。

万が一，強盗に遭った場合は生命を第一に考え，絶対に抵抗してはいけない。

（2）邦人犯罪被害事案

・7月10日，邦人男性がメデジン市を旅行中に，若いコロンビア人女性2人組と知り合い，宿舎に招いて飲食していたところ，途中で意識を失い，翌朝目が覚めると部屋から貴重品等が盗まれていた。飲食物にスコポラミン（鎮静剤）を投与されて意識を失ったものと見られる。

・8月20日，ボゴタ市のシモン・ボリーバル公園で開催された野外コンサート会場において，ズボンポケットに入れていた携帯電話を気づかない間に盗まれた。

・9月7日，ボゴタ市北部のフードコートにおいて飲食中，足下に置いていたバッグを気付かない間に盗まれた。

・10月17日午前11時ころ，バジェ・デル・カウカ県ブエナVENTOURA市のセントロにおいて一人で散策中，後ろから声を掛けられ振り向くとナイフを突きつけられバッグを奪われた。

・10月26日，ボゴタ市のショッピングセンター「アンディーノ」付近の路上で警察官を名乗る男に声を掛けられ，その指示に従い現金と携帯電話を手渡したところ，男に持ち去られ，盗まれたことに気がついた。

・11月26日，カリ市で宿泊していたホテルでロッカーに施錠してリュックを保管していたところ，気付かない間に解錠されておりバッグを盗まれた。

・12月9日午前0時ころ，ボゴタ市チャピネロ地区において知人と二人で歩いていたところ，歩道上にたむろしていた15歳くらいの男女約15名の集団のうち3名の男に押し倒され，包丁を突きつけられ鼻を殴られた。知人は携帯電話と現金を奪われた。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

E L N，F A R C 離反兵等の反政府武装組織の活動が活発な地域において，治安当局やインフラ施設に対するテロ事件が発生している。一方，ボゴタ市でも2017年6月，ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性

を含む3名が死亡する無差別テロ事件が発生していることから、今後もテロへの警戒は必要である。

- ・7月29日、カウカ県エル・タンボ市において、国軍とELNゲリラの銃撃戦が発生し、兵士1名が死亡、2名が負傷した。

- ・8月25日、2017年6月の「アンディーノ」テロ事件に関連したとして逮捕勾留されていた11名の被疑者（MRPメンバー）が起訴されずに釈放された。釈放された11名のうち7名はELNに関わりがあるとして反逆罪で8月31日に再逮捕された。

- ・8月28日、アンティオキア県ブリセーニョ市においてFARC離反兵が仕掛けた爆発物により、兵士1名が負傷した。

- ・9月26日、ボゴタ市プエンテ・アラランダ地区路上においてMRPの旗の横に置かれた爆発物を警察が解体処理した。

- ・10月23日、ノルテ・デ・サントアンデル県アカリ市において、警察施設に対して投てきされた手榴弾により警察官1名が死亡、市民5名が負傷した。

- ・11月5日夜間、ボゴタ市プエンテ・アラランダ地区路上において爆発物が爆発し隣接する学校に物的損害が発生した。負傷者はなく、脅迫目的とみられる。

- ・12月3日、ボゴタ市ウサケン地区において手榴弾により市民5名が負傷した。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

ELN等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、流しのタクシー（タクシーアプリ等で呼ぶ無線タクシーではない）は利用しない等の注意が必要である。